

未来へ導く
リーガルマインド

同志社大学
法学部

法律学科 / 政治学科

2025

 150th
1875-2025 ANNIVERSARY
The Doshisha

「考える力」を

法学部で学ぶ法学や政治学は、皆さんが大学の4年間をかけて学ぶだけの価値のある学問分野です。もちろん、その理由は、法学や政治学に関する高度な専門知識が、資格試験や公務員試験を受験する人たちにとって役立つからですし、広く社会人にとって、兼ね備えておくべき素養として要求されているからでもあります。ただ、それ以上に重要なのが、法学と政治学が、「考える力」の養成にとって優れているということです。

ここでいう「考える力」とは、皆さんが、前例のない問題に直面した際に、その問題の本質を見抜き、その解決策を見出し、さらに、その解決策を講じるため、周囲の人たちにその策を説明する能力のことです。これまでの日本は、何か問題に直面したときに、「今まで、こうしてきたから、今回も」という思考で解決を図ってきました。ところが、これからの時代は、そうした前例踏襲主義では太刀打ちできなくなりそうなのです。

オックスフォード大学工学部のマイケル・オズボーン教授は、2014年に、「今後、10～20年のうちに、今存在する職業の47%をAIが取って代わるようになる」との予測を発表し、世界中に衝撃を与えました。皆さんが生きているのは、まさに、その「10～20年」後の世界です。最近のAI技術の進化を目の当たりにすると、オズボーン教授の予測

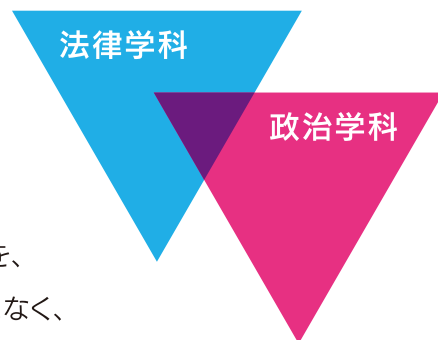


Doshisha University Faculty of Law

多彩なキャリアへと続く道を開く

法学部の学び

法学部では、知的好奇心や将来の進路選択に応じて体系的かつ効率的に学べるよう、法律学科には4つの履修モデルを、政治学科には3つのコースを設けています。ただ漫然と学ぶのではなく、将来を意識しながら専門性を身につけていくことが目的です。また、プレゼンテーションやディベートを通して実践的な問題解決能力の体得を目指す演習(ゼミ)や、原典を深く読み込む外国語教育など、高度な専門性を支えるための教育にも力を注いでいます。



未来を切り開く、法学・政治学の学び

はあながち誤りとはいえないでしょう。しかも、AIは、半分近くの職業を代替できるだけでなく、自動車の自動運転や多言語の同時翻訳(通訳)を実現させ、新型コロナウイルスのワクチンをはじめとする新薬の開発でも大きな役割を果たすなど、個人のライフスタイルや社会の構造に大きな変革をもたらしつつあります。これからの時代、今までの常識は必ずしも通用しませんし、きっと私たちが予想だにしていなかった未知の問題が浮上してくるでしょう。そうしたときに、適切な解決への処方箋を書ける力こそが、皆さんに求められているのです。そして、「社会は、こうあるべきだ」という理想と「でも実際はこうなっている」という現実の間で葛藤しながら、社会が抱える様々な課題への対応を検討する法学や政治学は、そうした力を養うのにうってつけの「道具」なのです。

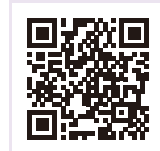
とりわけ同志社大学の法学部は、法学や政治学を基礎から段階的に学べるように、体系的なステップアップ方式のカリキュラムを提供しています。また、「考える力」を身につけた皆さんが、専門的な職業に就き、社会で活躍できるよう、キャリア設計につながるプログラム(法曹養成プログラム、企業法務プロフェッショナル育成プログラム)も用意しています。こうした充実した環境の中で、皆さんが、未来を切り開く「考える力」を身につけるために実りある学生生活を送ってくださることを願っています。

法学部長
川崎 友巳



| | | | |
|-----------|------------------|--|--|
| 法律学科 | 履修モデル | 公務員モデル | 国家公務員や地方公務員などを目指して学びます。 |
| | | 法曹モデル | 法曹三者や裁判所事務官、司法書士などを目指して学びます。 |
| | | 企業法務モデル | 民間企業への就職や企業法務専門の弁護士を目指して学びます。 |
| | | 基礎法学モデル | 現代社会が抱える問題に向き合うための法知識を学びます。 |
| | 法曹養成プログラム(法曹コース) | | 法曹三者(裁判官・検察官・弁護士)を育成するためのプログラムです。規定の科目を優秀な成績で履修することで法曹を目指すルートが広がります。 |
| 政治学科 | コース制 | 現代政治コース | 政党、選挙、行政、地方自治、有権者の政治意識などから現代政治のメカニズムを総合的に学びます。 |
| | | 歴史・思想コース | 日本・アジア・ヨーロッパの政治と思想の流れを理解することで、現代を考察する目を養います。 |
| | | 国際関係コース | 安全保障や国際機構、各国の政治や外交について学びながら国際政治の幅広い理解を目指します。 |
| 学びの特徴 | | 実務家による講義で現場の理解と卒業後の進路選択をサポート | |
| | | 法学教育の新たな可能性に取り組む「企業法務プロフェッショナル」 | |
| | | 2学位取得が可能な留学プログラム「ダブル・ディグリー」 | |
| これからの進路選択 | | 大学院法学研究科 | |
| | | 法科大学院 | |
| 将来の活躍の場 | | 法曹：裁判官、弁護士、検察官／公務員／税理士／政治家／研究者／司法書士／教員／民間企業：金融、メーカー、商社、コンサルタント、メディア など | |

法学部生の
キャリア支援は
「法学部法職講座」の
X(旧Twitter)で
配信中



履修モデル

学生一人ひとりが希望進路や興味に応じて選択履修するためのガイドラインとしてキャリアに直結する学びを支えます

公務員 モデル

国家公務員、地方公務員などを指す学生を対象としたモデルです。憲法、行政法関連科目（地方自治法、環境法など）を履修し、公務員になるために、そして公務員になってから必要とされる知識を修得します。

公務員モデルで明確な指針と 最適な環境が整っている

3年次生（取材時）

私は国家公務員を志していたため、公務員モデルを選択しました。公務員モデルは、公務員になるために必要な法律科目が明確で、公務員試験を念頭に置いた講義になっています。他にも、年々注目度が増している環境法といった、公務員になってからも役立つ分野について学ぶことができ、その中から将来なりたい理想の公務員像を見つけることもできます。ゼミではディベートや研究のレベルが高く、切磋琢磨し合う環境に身を置くことができます。一度きりの人生で何か大きなことに挑戦したいと思っていて、卒業後は社会をより良い方向に変えることに挑戦したいです。



法曹 モデル

裁判官、検察官、弁護士の法曹三者をはじめとする法律専門職を目指すには、憲法・民法・刑法などの基本的な法律分野を、幅広くかつ順序よく学修していくことが必要です。このモデルは、そうした学生の道しるべとなることを意図しています。

目標のために具体的に 何をすればよいかを 明らかにしてくれる場所

3年次生（取材時）

同志社大学において、法曹モデルでの履修を選択して良かったことは主に2つあります。まず、法律家について知る機会が多いことです。私は当初、法曹になるつもりはありませんでした。しかし、実務家の方がお話しされる機会のある講義や、弁護士の方が添削する機会のある講義を通して、将来の目標として法曹を考えるようになりました。講義外でも、ランチセミナーや裁判を見学する企画などがあります。次に、学部段階で法曹資格を得るための力を実質的に身につけられることです。弁護士の方による答案添削が受けられる授業がある他、ロースクール教員の先生が担当の授業も珍しくありません。このように、同志社大学の法曹モデルは私に目標を与え、目標のために具体的に何をすればよいかを明らかにしてくれる場所です。



企業法務 モデル

民間企業で法律知識を活かして働きたいと思っている学生が対象。法曹の中でも、企業法務を専門とした弁護士を目指す学生にも最適です。「民法」と「商法」を中心に、企業に関連する法分野を学びます。

興味や好奇心を学びに つなげられる環境

3年次生（取材時）

法律は日常生活や企業活動とは切っても切り離せないものです。私はそのような基礎を大学で学ぶことで将来の選択肢を増やしたいと考え、法学部に入学しました。企業法務モデルでは、実際に企業の法務部への就業体験プログラムも提供されており、実務のイメージを描くのにとっても役立っています。幅広い分野の講義から自分の興味のある講義を選択して履修登録ができるので、学びの自由度が高い学部であるところも魅力だと思います。また、ゼミではディベート活動に注力し、友人と切磋琢磨することで法的思考力の向上に努めています。



基礎法学 モデル

激動する現代社会では、これまで自明とされていた法学の基本原則が揺らいできています。当モデルは、法制史学、法哲学・法思想史、法社会学などの研究アプローチを紹介し、未知の問題に対応できる判断力と柔軟性を育みます。

履修モデルから自らの 興味関心に合わせた学びを

3年次生（取材時）

私が同志社大学法学部を志した理由には、現代社会の基礎を形作る「法律」そのものへの関心がありました。基礎法学モデルでは、今ここにある「法律」だけに目を向けるのではなく、世界中個々の社会と密接に関わることで変容してきた「法」というものに目を向けることで、多様化する現代社会を生き抜く私たちに新たな気づきを与えてくれます。また、自らの興味関心に沿った基礎法学モデルの講義を選択するだけでなく、他の履修モデルの講義も併せて選択履修することで、幅広い学びを得ることができる点も大きな魅力だと思います。



法と社会のつながりを見つめる

「リーガルマインド(法的な思考)」の養成を重視する法律学科では、入門科目→基礎科目→展開科目から成る『ステップアップ方式』のカリキュラムを採用しています。加えて、キャリアに直結する学びを支える『履修モデル』を導入し、実社会で活用できる能力の修得をサポートしていきます。

法曹養成プログラム(法曹コース)について

法律の専門家のことを「法曹」と呼びますが、法曹コースは、その中でも、司法制度の主な担い手である裁判官、検察官、弁護士を育成するための教育プログラムです。「法曹」になるには、司法試験に合格しなければなりません。かつて司法試験は誰でも受験できましたが、2012年度以降は、法科大学院を修了するなどして、司法試験の受験資格を得なければならなくなりました。

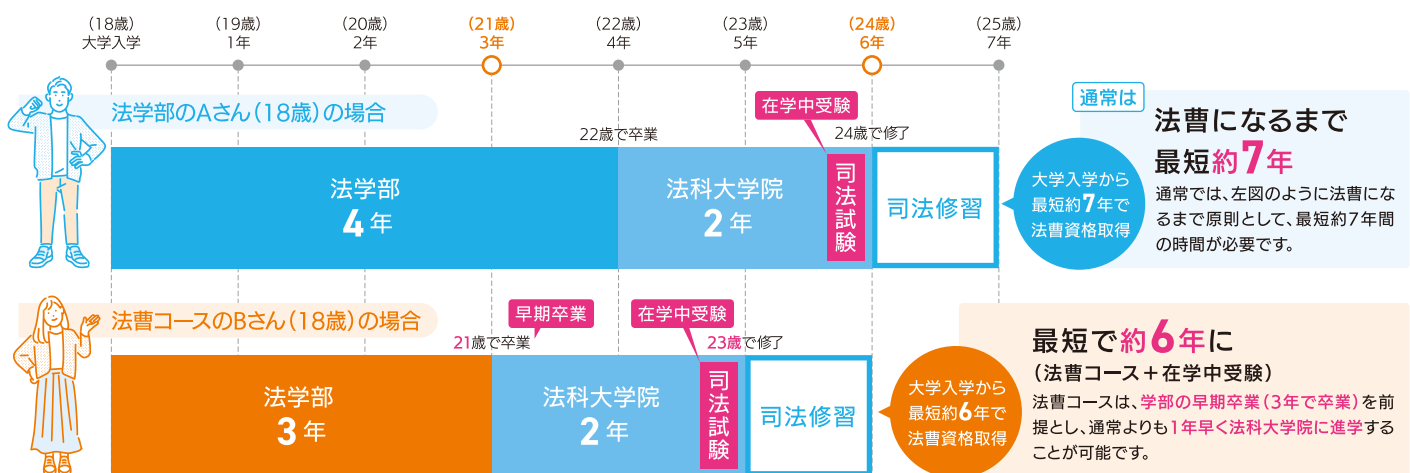
現在、司法試験を受験するためのルートとしては、法科大学院を修了するルートのほか、予備試験に合格するルートがあります。予備試験は学部在学中でも受験することができますが、予備試験の合格率は4%前後とかなり厳しいこともあって、多くの人は、法科大学院に進学しています。

学部を4年で卒業後、大学院を修了等してから司法試験を受験するとすると、「法曹」になるまでに時間がかかります。その時間を短縮するために考えられたのが、法曹コースです。法曹コースでは、法学部が特定の法科大学院と連携し、法科大学院教育の一部を担うことにより、原則として「学部3年+大学院2年」で司法試験を受験することが可能となります。同志社大学法学部は、同志社大学法科大学院および神戸大学法科大学院と連携しています。

「法曹を目指すあなたへ(法曹養成プログラムパンフレット)」
デジタルパンフレット



「法曹コース」は何が違う? ~法曹になるまでのプロセス~



※上記の他に司法試験受験資格を得られる制度として、法学部等で法律を勉強したことのない方が法科大学院に3年間通う制度や、司法試験予備試験という制度もあります。

法曹コースの学生向けの特別選抜

5年一貫型教育選抜

- 論文式試験が課されない
- 同志社大学:書類審査
- 神戸大学:書類審査+口頭試問

開放型選抜

- 論文式試験が課される
- 左記協定先以外の法科大学院も受験可能

一般選抜

- 論文式試験が課される
- 既修者コース:法律科目試験
- 未修者コース:小論文試験

(パンフレット「法曹を目指すあなたへ」より)

法曹コース 法科大学院 合格者の声

反復の大切さ

法律学科3年次生(取材時)

法曹コースでは独自科目が設定されており、その講義においては答案を書く力が試されます。初見の問題のどこが論点なのか、どのように事案の中から事実を拾うのかということを常に意識しつつ事例問題に取り組むことで、徐々に事例問題に慣れてくることができました。諦めず、一つひとつそうした論点に取り組んでみてください。



神戸大学大学院
法学研究科 合格

司法試験合格への土台づくり

司法研究科2年次生(取材時) 2022年法学部卒業

法曹コースには多様な科目が設置されており、知識のインプットとアウトプットの両面を経験することができるので、司法試験合格に向けた学習の土台を築くことができます。司法試験に精通されている法科大学院の先生の授業を、学部時代から受けることができるということも、法曹コースの魅力です。



同志社大学大学院
司法研究科 合格

コース制

最新の政治学研究の成果を取り入れた体系的なカリキュラムです

現代政治 コース

政党、選挙、行政、地方自治、有権者の政治意識などを学び、現代政治のメカニズムを理解します。コンピュータによるデータ分析にも力を入れています。

幅広い知識と実践的な 学びの機会を提供

3年次生(取材時)

同志社大学はしっかりと勉強できる環境が整っていると感じています。特に政治学科では、ゼミが2年生の秋学期から始まるので、早いうちから、研究ができることが魅力です。またコース制では、専門的かつ幅広い分野を勉強できるので、授業で学んだことが他の授業の知識とつながり、とても勉強になります。学外では、京都の文化や観光名所を楽しむことができるため、充実した学生生活を過ごすことができます。同志社大学の法学部は政治や法律に興味のある学生に幅広い知識と実践的な学びの機会を提供しています。特に政治学を勉強すると、高校生の時と違った角度で現象を理解することができると思います。



歴史・思想 コース

日本・アジア・ヨーロッパの政治に関する歴史と思想の大きな流れを理解することによって、時代の変動期にある"現代"をより深い視点から考察する目を養います。

自分が興味のある分野を必ず 発見することができる

3年次生(取材時)

高校生の頃から政治と歴史に強い関心があり、その双方の学びを深められる歴史・思想コースを選択しました。私は日本政治史を専攻していますが、現代的な視点・国際的な視点も必要となります。その際に、1・2年次で学習した内容が大いに役立っています。同志社大学では、複数のカリキュラムが設置されているため、自分が興味のある分野を必ず発見することができます。卒業後は、大学での学びと経験を活かし、社会の発展に貢献できる人材に成長したいと考えています。



日本と世界の政治を 読み解く

政治学科では、最新の政治学研究の成果を取り入れた体系的なカリキュラム『コース制』を用意しています。2年次秋学期より、「現代政治」「歴史・思想」「国際関係」の中から関心に沿ったコースを選択し、専門知識を修得。絶え間なく変動する国内外の政治を冷静に分析し、21世紀のあるべき姿を構想する確かな力を身につけるための学びがここにあります。

国際関係 コース

安全保障・国際機構・国際政治経済についての知識を深めるとともに、アメリカ・ヨーロッパ・中国・東南アジア・アフリカなどの政治を総合的に把握します。

好きなことを思う存分 自由に学ぶことができる幸せ

3年次生(取材時)

私が政治に関心を持ったきっかけは、2016年にバラク・オバマ米大統領が、現職の大統領として初めて被爆地・広島を訪問したことです。オバマ大統領の演説を聴視し、戦争の残酷さを再認識しました。しかし、今もなお国家間の対立、テロ、残虐、迫害などは世界中で続いています。国際社会は、戦争を回避し、平和を維持・構築するために何ができるのかを考えていきたいと思い、政治学科に進学し、国際関係コースを選択しました。同志社大学では、自身の興味をとことん追及できます。仲間と切磋琢磨し、自由に好きなことを探究しませんか。



実務家による連続講義

プロフェッショナルに聞く政治、外交、メディアの現場

政治学科では、政治や外交などの第一線で活躍した経験をもつ実務家による連続講義を設置しています。これらの講義では、通常の講義では得られない知識と刺激を受けることができます。現在、開講している科目は、元外交官による講義、新聞記者による講義の2つです。



元外交官による講義

元外交官による講義では、近現代日本外交史および安全保障政策の決定過程を取り上げます。前者では、日本の近代外交を世界史の中で振り返ることで、日本がどのような外交を展開したのか、第二次世界大戦に向かう日本外交の破局の原因とは何であったのかを探究します。また、戦後の世界で普遍的価値観を主張する日本外交はどのように展開してきたのかについても考えます。後者では、国家の安全保障政策決定過程を、国民、総理官邸(内閣官房)、外務省、防衛省、自衛隊などの連関の中で動的に考えます。また、安全保障政策の各論として、外交戦略を取り上げます。本講義では、外交交渉の当事者だからこそ知り得た外交の裏側など、文献やインターネット情報では分からない貴重な経験談を聞くことができます。



新聞記者による講義

新聞記者による講義では、紙面を構成する様々な分野から毎回一つを取り上げます。過去の講義では、政治関連(政治・外交・安全保障、選挙)はもちろんのこと、それ以外にも、経済、教育、文化、医療、スポーツ、情報リテラシー、調査報道、報道写真などを取り上げてきました。そして、各分野で現在関心を集めている話題を素材としながら、日本および世界で何が問題となっており、その解決には何が必要なのかについて、取材経験などを基に語られます。

以上の実務家による連続講義は、政策決定・実施の現場を理解するとともに、卒業後に国際社会やメディアで活躍しようとする学生にとって、大きな刺激になっています。また、講義を通じて喚起された問題関心を学問的に深めるために、多数の受講生が専門科目を幅広く履修しています。

企業法務プロフェッショナル育成プログラム

企業法務のプロフェッショナルを育成する

産学共同の新型インターンシップ『リーガル・フィールドワーク』

法学部独自のインターンシップ(企業内研修)プログラムである『リーガル・フィールドワーク』。このプログラムは、企業人と教員による個別指導を受けながら、企業の法務・知的財産部門に特化したインターンシップを体験できる点が特徴です。

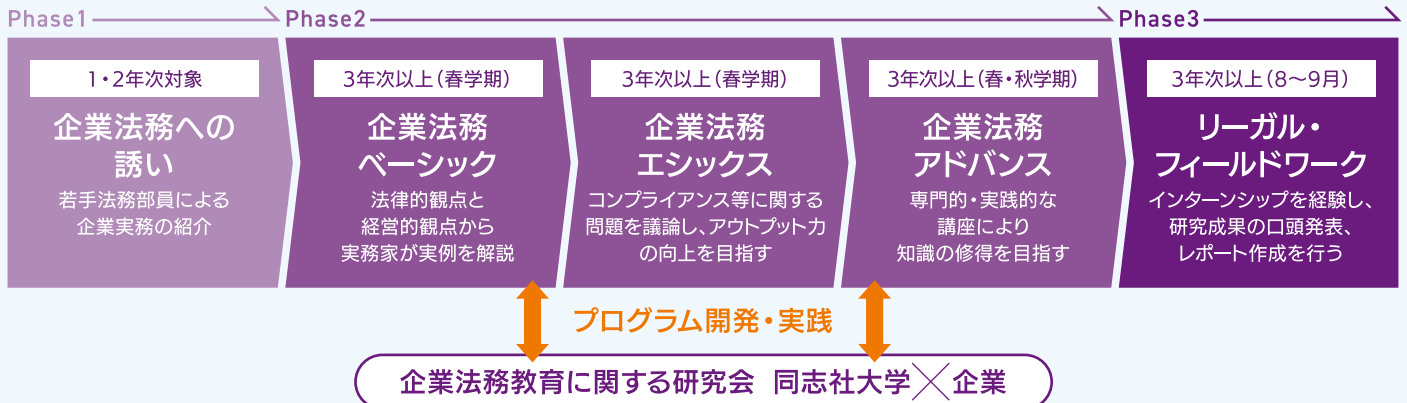
参加学生は、自ら設定した研究テーマを「生きた法律」が体験できる場で追究します。企業内で法的な問題がどのように議論され、解決されるのかの実際を見聞き、法学への学習意欲がさらに高められます。

「企業法務プロフェッショナル育成プログラム」デジタルパンフレット



ステップアップ方式で実践的な科目を受講

『リーガル・フィールドワーク』は、実務・就業体験を目的とした一般的なインターンシップとは違い、「生きた法律の現場で課題を追究する」という法学教育の目的に即したプログラムです。プログラム参加学生は、1年次からステップアップ方式で実践的な科目を受講します。これら教室で身につけた知識をもとに、現場で追究すべき課題を見つけた上で、『リーガル・フィールドワーク』に参加。フィールドワーク期間中は、企業人と教員の個別指導を受けながら、現場で生まれる疑問の解決と知識の定着を図ります。学生たちはこの体験を通して、「現場で、法律がどんな役割を果たしているか」「実社会で活躍する上で、自分には何が必要なのか」を肌で感じ、課題を解決へと導いていきます。



リーガル・フィールドワーク 参加者の声

企業法務と知的財産法

研修先: 株式会社林原

私は特許・商標・意匠などの知的財産を守り、企業の競争力を高める知的財産法務に強い関心を持っているため、リーガル・フィールドワークに参加しました。リーガル・フィールドワークでは、知財部にて8日間の実習に参加させていただきました。特許や商標の調査方法、出願中の対応、ライセンスでの活用など、知的財産法について様々な面から、業務で考慮する点についてご指導いただきました。法務部での業務だけでなく、知的財産に関する業務に関心をもっている方も、多くの学びを得ることのできる素晴らしい機会になるかと思っています。



法学部 法律学科(取材時)

キャリア設計の第一歩

研修先: 日本電気株式会社

私が参加させていただいた企業のプログラムでは、契約書関連の業務や交渉実習、多くの社員の方々からお話を伺う機会をご用意いただき、実務への理解を深めるとともに、知的財産法務の魅力を確認できました。本プログラムの活用により、普段の生活の中からは見えにくい、企業法務関連の理解が深まることはもちろん、自身のキャリア設計を行うにあたり、大きな手がかりになると思います。少しでも興味がある方は、ぜひ挑戦してみてください。



法学研究科
私法学専攻(取材時)

企業法務とは何かを学ぶ

研修先: シャープ株式会社

私は、学部時代に企業法務エシックス/ベーシックに参加させていただき、法律の知識とビジネスへの理解や論理的思考力を掛け合わせて企業価値向上を目指す企業法務に関心をもつようになりました。そして、企業法務プログラムには、法律が実務でどのように活用されているかを学ぶことができるリーガル・フィールドワークが組み込まれています。私もシャープ株式会社での実習に参加し、法務部員として働くことの魅力を体感しました。この企業法務育成プログラムに参加することは、皆さんのキャリア設計の視野を広げる機会になると思います。



法学研究科
私法学専攻(取材時)

法務部で働くイメージをつかむきっかけに

研修先: シャープ株式会社

大学や大学院の講義で、企業の法務部で活躍されている方のお話を伺う機会がありますが、リーガル・フィールドワークに参加し、実務を体験することで、座学では学べない、企業法務の魅力を知ることができました。また、法律知識をビジネスでどのように活用できるのかに加えて、法務部員の方が、日々どのようなことを意識して業務をされているのかを体感でき、今後の学生生活での目標を得ることができると思います。実習先では、たくさんの法務部員の方と交流することができ、法務部で働くイメージをつかむきっかけになりました。



法学研究科
私法学専攻(取材時)

法学研究科

Graduate School of Law

豊かな総合力を備えた スペシャリストの養成

同志社大学大学院法学研究科が目指すのは、高度な知識をもちながら、豊かな総合力を有する人材の育成です。そのために、多彩な専攻プログラムと充実した施設・設備、優秀かつ経験豊かな教授陣を整えています。こうした万全の研究環境が、専門的できめ細かな指導を実現。民間企業のほか、研究者、公務員など、政治や法律のスペシャリストとして、活躍の場が広がります。

専攻カリキュラム:3つの専攻で高度な理論や知識を体系的に修得

法学研究科では「政治学」「私法学」「公法学」の3つの専攻を設け、それぞれの分野で専門的な知識と能力を修得できるカリキュラムを導入。理論的学習のみならず、実務家を交えたディスカッションなどを通して、リサーチ能力とバランス感覚を備えた総合力・判断力のある人材の育成を目指します。



政治学専攻

「国際関係・地域研究」「政治過程」「政治史・政治思想」の3つの分野について、近年の学問動向を反映した標準的な科目を設置しています。政治学のどの領域についても、深く専門的に研究することができます。また、1年次春学期の「政治学基礎」では、政治学に関する基本的な知識や研究論文の要件などについて学習します。学部で政治学を専攻した学生はもとより、専攻しなかった学生でも、努力次第で大学院教育に適應できるよう配慮されています。

私法学専攻

私法学専攻では、「民法」「商法」「民事訴訟法」「国際私法」といった私法系の科目や、「労働法」「知的財産法」「経済法」などの現代的な科目を設置しています。

公法学専攻

公法学専攻では、「憲法」「行政法」「刑法」「国際法」といった公法系の科目や、「法哲学」「法社会学」「法制史」などの基礎法科目を設置しています。

◎私法学専攻・公法学専攻共通

両専攻では、基礎科目に加え、キャリア設計を踏まえた多様な科目を用意しています。例えば、資格試験受験に有益な判例研究を内容とする科目（「ケーススタディ民法1・2」「ケーススタディ憲法」など）や、企業法務スタッフにとって重要度の高いビジネス関連科目（「ビジネス契約法」「ビジネスと知的財産法」「コーポレート・ファイナンス」など）です。これらの科目の履修によって、将来、志望する進路に進んだときに役立つ専門的な知識と洗練されたリーガルマインドの修得をサポートしていきます。

「なぜ？」から始まる知的創造活動

政治学専攻 博士課程[前期課程] (取材時)

政治学では、様々な「なぜ？」から研究がスタートします。このような問いに答えていく過程を通じて大学院では、学部時代には得られなかった専門的なものの見方、考え方が身につくとともに、新たな理論や枠組みを提示する知的創造活動に携わることができます。特に多くの大学において卒業論文が必修ではない法学部出身者はこのような能力がより顕著に得られるのではないのでしょうか。

大学院生活では、どれくらいの比率で勉強・研究するのか、バイトや就活をするのかも自分次第です。裁量をもって自分をマネジメントできることも、大学院生活において得られる技能であると考えています。



知的な背伸びをやってみる

政治学専攻 博士課程[後期課程] (取材時)

なぜ大学院に進学するのでしょうか。関心のあるテーマを深めたいから、論理的思考力や表現力を身につけたいからなど様々な理由があることでしょうか。講義は基本的にゼミ形式ですので、報告を受け、ディスカッションに参加し、他の院生や教員と議論することにより、新たな知見や刺激が得られます。報告を担当する際には、周知な用意が求められ、リサーチ能力はもちろん、それを表現する能力も鍛えられます。新たな視点やアイデアは、他者との関わりの中で生まれてくることも意外と多いのです。こうした環境に身を置き、仲間とともに知的な背伸びをしてみませんか。



成長の実感

私法学専攻 博士課程[前期課程] (取材時)

本研究科に進学した理由は、第一に深く法律を学ぶため、第二に企業法務を目指す上で必要なスキルを得るためという2点です。大学院は、先生方との距離が近く丁寧にご指導いただけるため、様々な知識や能力を獲得することができました。また、企業法務プログラム等を通し、法務パーソンとして必要な素養を身につけられ、希望進路に近づくことができました。大学院は、学部時代よりも求められるレベルが高く、時には心が折れかけてしまうこともあります。ですが、大学院修了時には、自身の成長を実感できるので、ぜひ挑戦してみてください。



最適な学習環境

公法学専攻 博士課程[前期課程] (取材時)

本研究科は、自身の研究分野について最大限のパフォーマンスができる環境であると思っています。大学院の講義は、少人数の講義で、各回に担当の学生から1つのテーマについて発表し、議論する形式なので、自分1人で研究、報告という流れを通して学部以上にアカデミックな学びができます。また、先生方との距離が近いので、すぐに質問できる環境でもあります。このような環境で自身の研究を通じて研究に注力することで視野が広がったり、新たな価値観が生まれるなどといった自身を磨くことができる貴重な機会になると思います。



ダブル・ディグリープログラム(2学位取得)

次世代リーダー養成を目指す

国境を越えて地球規模で発生する様々な問題に対して、多面的に取り組み、そして解決に貢献できる人材を育てることを目指して、「Prospective Leaders' Programmes: Innovation and Diversity in Learning」という法学部独自の海外大学留学プログラムを実施しています。

アリゾナ大学ロースクール(アメリカアリゾナ州ツーソン市)

全米で有効な司法試験受験資格が得られる

本来7年必要な課程を同志社大学法学部で3年、アリゾナ大学James E. Rogers College of Law(ロースクール)で2年の履修指導を受けることにより、双方の大学から学位を取得(ダブル・ディグリー)することができるプログラムです。両大学卒業後には、全米各州で有効な受験資格が得られます。

◎アリゾナ大学について

アメリカ南部、メキシコと国境を接するアリゾナ州ツーソン市に本部を置く州立大学。州最古の研究大学として名高く、ロースクールには国内外で著名な教授陣が揃い、国内公立大学ランキングでも常に上位に位置しています。司法試験の初回受験者合格率は、毎年州平均を上回る70%前後を達成しています。

アリゾナプログラム
(2024年4月現在)



■履修例

5年間で10学期に分けて履修します。1年次から3年次の春学期までは同志社大学、続く3年次の秋学期から5年次の春学期にかけてはアリゾナ大学において、それぞれの大学の科目群を履修。5年次の秋学期には再び同志社大学に戻り、残りの科目群を完修させます。なお、本プログラムは4年次生、または卒業後5年以内の卒業生も参加することができます。

■卒業必要単位数

同志社大学での卒業必要単位数は128単位。そのうち最大29単位までは、アリゾナ大学で履修した単位を認定します。したがって29単位が認定された場合には、同志社大学での必要単位数は99単位となります。アリゾナ大学では、同志社大学で取得した履修単位を最大29単位分まで認定します。これはロースクール3年課程の1年分に相当する単位数となります。

| 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 5年次 | | |
|--------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------------|----------------|-----------------|----------------|-----------------|-------------------|
| 第1学期 (4~8月) | 第2学期 (9~2月) | 第3学期 (4~8月) | 第4学期 (9~2月) | 第5学期 (4~8月) | 第6学期 (8~12月) | 第7学期 (1~5月) | 第8学期 (8~12月) | 第9学期 (1~5月) | 第10学期 (9~2月) | |
| 同志社大学 50科目程度(97単位) | | | | | アリゾナ大学 20科目程度(61単位以上) | | | | | 同志社大学 1科目(2単位) |

修了生の声

アリゾナ州ツーソンにて



私はダブル・ディグリープログラムに基づき、2020年から2022年にかけて、アリゾナ大学ロースクールのJuris Doctor(JD)プログラムに参加していました。このJDプログラムの最大のメリットは、LLMの1年コースで学ぶ基本科目よりもさらに応用の科目や自身の興味のある法律科目を2年目に学ぶことができ、司法試験を受験できる州の数も格段に増えるので、将来の選択肢が大きく広がるという点です。JDはアメリカで教育を受けてきた現地学生と同じカリキュラムで授業が進むので、私にとってロースクールののはじめは困難の連続でした。事前にどれほどロースクールの苦勞や厳しさについて経験者の体験談を読み、覚悟をしてい

も、実際に大量の判例を読解し、ソクラテスマソッドの授業を受けるのは大変です。また新型コロナウイルス流行の始まりでもあったので、これからどうなっていくのか分からない中で、今までの方式とは違う形で授業や試験を受けることも困難の一つでした。しかしこれらの困難を経て、得られるものは大変大きいです。英米法の知識や判例のリサーチ方法といった知識が学べるだけでなく、年齢や出身国、職業経験などにおいて多様なバックグラウンドの方々や模擬裁判や交渉などを通して協力する経験を得ることができました。気温30度超の5月にレガリア(卒業式用のガウン)を着て、卒業式で自身の名前が呼ばれる喜びは何ものにも代え難いものです。

その他の協定留学プログラム(単位互換)

ダブル・ディグリープログラム以外にも法学部生を対象とした単位互換プログラムを実施しています。このプログラムでは政治または法律科目を中心とした単位取得を目的としており、単なる語学研修ではなく、英語または現地語で専門科目を学修したい学生におすすめです。

単位互換プログラム
(2024年4月現在)



協定大学

モントリオール大学(カナダ) / チューリッヒ大学(スイス) / 東呉大学(台湾) / トゥールーズ第1大学(フランス) / シエナ大学(イタリア) / 雲南大学(中国) / 中国政法大学(中国)



卒業生インタビュー

法学部から社会に羽ばたき、活躍する卒業生から受験生の皆さんへメッセージ



渡邊 健太さん(2021年3月卒業)
関西電力株式会社

原 麻梨子さん(2021年3月卒業)
株式会社SCREENホールディングス



法学部で育まれた視点、
制度・情勢変化の激しい

電力業界の舞台

法学部で身につけた論理的な思考力と社会情勢への関心が、現在の仕事における強い原動力となっており、ここで学んだ経験は、私の現在の仕事において大きな影響を与えています。私は大学時代、社会情勢の変化やその要因の分析に興味を抱きました。これは法学部で培った論理的な思考力が、世界の動きを理解し、課題に対処するための基盤を築いたことに起因しています。法学部の講義では、社会の変化や情勢の変動を正確に捉え、その要因や影響を深く理解する力を養うことに焦点を当てており、現在の仕事においても大いに役立っています。

現在私は関西電力で働いており、市場や制度変化の影響を受けながら、その変化を踏まえて最適な電力の発電や取引の計画を検討する業務を担っています。この仕事において大切にしている事は、常に環境の変化に対してアンテナを張り、積極的に対応・挑戦する姿勢です。大学で培った柔軟な思考と問題解決力が、この私の価値観への下支えとなっています。同志社は、多様な価値観や考えを持つ学生が集まり、刺激的な議論を行うことができる環境が整っており、今の私の糧となりました。皆さんもぜひ、自分の進みたい道を見つけてください。



同志社で培った
知的探求心と

自由な発想

法務・知財・コンプライアンス室に所属し、最初の2年間は法務、現在は知財戦略を担当しています。学部から院まで知的財産の授業を継続して履修した経験を生かし、ビジネスの視点から知的財産を戦略的に扱う仕事をしています。法律知識はもちろん、技術分野への理解や先を見据えた発想が求められる中、楽しんで取り組んでいる背景には、同志社で培った知的探求心と自由な発想が生きています。

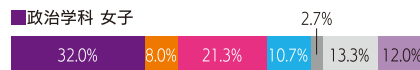
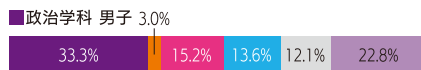
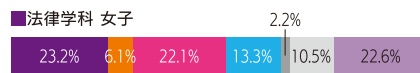
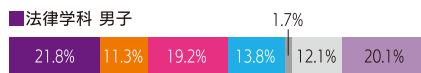
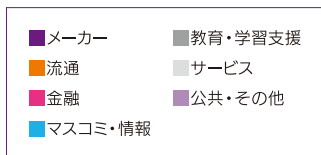
学部では民法ゼミに所属していましたが、京都の景観について民法の領域を出て調べてみたいと思い、法社会学専攻で研究科に進学しました。地域の協議会に参加して意思決定の過程を辿ったり、条例に照らして実際の建物を観察したりと、オリジナルの研究を試行錯誤しました。同志社には、自由な発想を推奨し、学生が疑問に思うことを柔軟に考えて研究に昇華できる、懐の深い環境がありました。大学で得た法律知識、研究で培った知的探求心と自由な発想を、最先端の技術分野とグローバルなビジネスの両方を備えた場で生かしたいと考え、今の会社を選びました。将来は、会社の進むべき方向を示す知財戦略を立案できる担当者に成長し、社会課題の解決に貢献していきたいと思っています。

就職実績 卒業生は、そのリーガルマインドを活かし、多彩な業界で活躍しています。

※就職先・2024年4月採用

国家公務員/地方公務員/アフラック生命保険株式会社/株式会社バンダイ/株式会社ベイカレント・コンサルティング/阪和興業株式会社/伊藤忠商事株式会社/株式会社キーンエンス/株式会社京都銀行/株式会社トトリ/株式会社NTTデータ/株式会社NTTドコモ/日本航空株式会社/日本生命保険相互会社/日本郵政株式会社/西日本電信電話株式会社/野村證券株式会社/株式会社三井住友銀行/みずほフィナンシャルグループ/株式会社村田製作所/オリックス株式会社/パナソニック株式会社/りそなグループ/Sky株式会社/サントリーホールディングス株式会社/ソニーグループ株式会社/東京海上日動火災保険株式会社/トヨタ自動車株式会社/株式会社ゆうちょ銀行 ほか多数

法学部



法学研究科

民間企業 カルビー株式会社/キャセイパシフィック航空会社/株式会社日立製作所/株式会社堀場製作所/イオンフィナンシャルサービス株式会社/岩井コスモ証券株式会社/関西電力株式会社/京セラ株式会社/株式会社共立合金製作所/株式会社クボタ/株式会社NTTデータ/株式会社NTTドコモ/株式会社村田製作所/日東電工株式会社/丸善薬品産業株式会社/三菱重工業株式会社/パナソニック株式会社/株式会社SCREENホールディングス/ソニーグループ株式会社/住友金属鉱山株式会社/シャープ株式会社/トヨタ自動車株式会社/トヨタ紡織株式会社 ほか多数

公務員 国家公務員(総合職・一般職)/外務省専門職員/裁判所事務官(総合職・一般職)/家庭裁判所調査官補(総合職)/国税専門官/労働基準監督官/法務省専門職員/国会職員/地方公務員

資格試験 司法書士試験/税理士試験/弁理士試験/行政書士試験/国会議員政策担当秘書資格試験 ほか多数

研究者 研究者志望の人などは後期課程に進学します。最近では後期課程修了と同時に博士号を取得する「課程博士」が増えています。

同志社大学法学部 2025年度入学試験

募集定員

同志社大学法学部は、法律・政治学科あわせて893名(学則定員)の新入生を受け入れています。

| | |
|---------------|-------------|
| 法学部 法律学科 | 683名 |
| 法学部 政治学科 | 210名 |
| 法学部 合計 | 893名 |

入試の種類

一般選抜入学試験

「英語」「国語」「地理歴史または公民または数学」の3科目入試です。
全学部日程(2月5日)と学部個別日程(2月8日)あわせて2回受験が可能です。

大学入学共通テスト利用入試を利用する入学試験

個別学力検査は課さず、大学入学共通テスト利用入試の合計点により合否を判定します。

自己推薦入学試験

優れた語学力をもっている者が対象です。

外国人留学生入学試験

法学部で学ぶ意欲をもった外国人留学生を募集しています。

*上記入学試験に関する詳細は入学試験要項をご覧ください。

人材養成に関する目的

法律学科

法律学科は、法学について、体系的・専門的な知識の伝達と、実践的・双方向的な教育を通して、法学の専門的知識と、それを活用して法的問題の妥当な解決を図る能力(いわゆるリーガルマインド)を身につけて、法曹三者、企業の法務・知的財産・人事・総務部門、公務員、法律専門職、研究職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とします。

政治学科

政治学科は、政治学について、体系的・専門的な知識の伝達と、実践的・双方向的な教育を通して、政治学の専門的知識と、問題発見・解決能力を身につけて、公務員、国際公務員、企業の企画・総務部門、ジャーナリスト、研究職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とします。



〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL.075-251-3511 FAX.075-251-3064

©同志社大学法学部HP
<https://law.doshisha.ac.jp>



UD
FONT
見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

2024年5月20日発行